

【薬剤師】

◎主な配属先、業務内容

■本庁

医薬食品・衛生課



- 医薬品等の品質、有効性および安全性の確保に関する業務
- 薬物乱用防止や献血に関する普及啓発
- 食品衛生や生活衛生に関する業務

保健予防課

- 感染症の予防、発生時の対応、予防接種対策、医療費助成
- 新型コロナウイルス感染症に関する業務（感染拡大防止、ワクチン接種業務）



地域医療課



- 医療提供体制の構築（医療計画の推進など）
- ドクターヘリの運航等による救急医療の充実
- 原子力災害を含む災害時の医療対策

■ 出先機関

健康福祉センター

- 病院や薬局等の薬事衛生、飲食店等の食品衛生、旅館や理・美容所等の生活衛生、廃棄物処理等の環境衛生に関する許可業務や監視指導



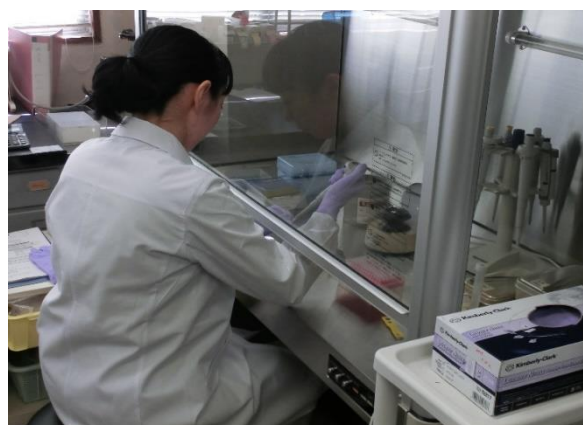
県立病院



- 調剤業務のほか、医薬品の管理、抗がん剤等の調製など
- 病棟での患者への服薬指導やカンファレンスへ参加など医師・看護師等と連携し、患者の治療や医療の安全に努めている

衛生環境研究センター

- 感染症、食中毒、食品衛生、有害化学物質、大気汚染、水質汚濁などに関する調査研究や試験検査



【薬剤師】令和2年度採用



若狭健康福祉センター

黒坂 有貴

(名城大学 薬学部薬学科 卒業)



【主な担当業務】

- 食品衛生に関する業務
(飲食店などの営業許可施設の立入検査、旅館や給食施設への巡回指導など)

◎ある一日のスケジュール

8:30	9:30	11:00	12:00	13:00	15:30	17:15
業務開始、 メールチェック、 新聞チェック	収去検査	事業者からの相 談、および記録の 作成	昼休み	食品衛生監視 (飲食店等への立 入検査)	日報作成、 立入の準備	業務終了

◎福井県職員を志望した理由

私は福井県出身ではなく、大学を卒業するまでは福井県で生活したこともありませんでした。しかし、何度か福井県を訪れた際に、地元にはない福井県の豊かな自然や県民の方々の温かさに触れ、福井県が大好きになりました。そして、この福井県の自然や食、県民の方々の健康を、環境衛生、食品衛生等の業務を通じて守りたいと考え、福井県の採用試験を受験しました。

◎仕事をはじめて感じていること、やりがい

飲食店や理・美容室、クリーニング店、旅館など、私たちの生活のとても身近な施設は、それぞれの法律に基づいて営業していること、またそこに県職員の薬剤師が関わっていることを知り、とても驚きました。

私は現在、食品衛生に関する業務を担当しており、具体的には飲食店などの営業許可施設の立入検査、旅館や給食施設への巡回指導などを行っています。採用前に想像していたよりも、立入検査などで外出し、県民の方々と直接お話しする機会が多くあります。県職員の薬剤師の業務は、県民の方々の生活に深く関わっているのだと感じています。

時には立入検査の際に、「ありがとう。」「ご苦労さんやねえ。」など、優しいお言葉をかけていただき、とてもうれしく思います。食品衛生に関する業務を通じて、県民の方々の健康を守る仕事にやりがいを感じています。

◎採用試験対策

教養試験については、まず過去問を確認し、出題数が多い科目を重点的に取り組むようにしました。専門科目については、国家試験対策にもつながるため、時間に余裕をもち、日々コツコツと勉強を進めることが大切だと思います。私は国家試験対策の本を使用し、基本的な問題から普通の難易度の問題を解くようにしていました。二次試験対策については、福井県の課題や現在取り組んでいる施策などの確認をし、福井県の時事を把握するため、新聞を読むようにしていました。

5、6年生の時は、実務実習や研究室での実験、国家試験のための勉強など、やらなくてはならないことがたくさんあり、なかなか勉強の時間を確保できなかったため、とても不安でした。なるべく早いうちから少しずつでも勉強を進めること、電車での移動時間や実験の待ち時間など、ちょっとしたスキ間時間を利用して勉強することが大切だと思います。

◎後輩たちへ一言

薬剤師と言えば、病院や薬局での調剤や服薬指導を行う薬剤師がすぐに思い浮かぶと思います。私は県職員として働き始めるまで、県職員の薬剤師がどのような業務をしているのか、あまり想像できませんでした。県職員の薬剤師は、病院や薬局で働く薬剤師と比較すると、あまり目立たないかもしれませんが、県民の方々の生活に欠かすことができない重要な役割を担っています。

県職員の薬剤師は、大学6年間で学んだ知識を、調剤だけでなく、行政、試験研究など、幅広い分野で生かすことのできる仕事です。県民の方や他の職種の方など、多くの方と関わる機会があり、さまざまな知識や経験を得ることができると思います。